

左沢の生活から見る 最上川文化

大江町地域概要

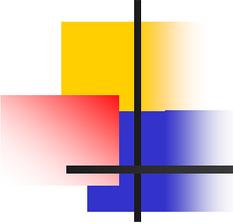
人口 10,425人

世帯数 2,898戸

面積 153,92km²

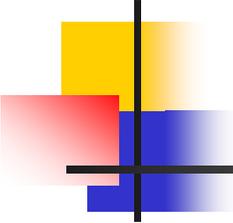


- ・昔、**最上川舟運の中継地点**として栄えた町
- ・果樹を中心とした**農業、ニット**などが主な産業
- ・現在では町全体として**過疎化高齡化**の問題



研究目的と背景

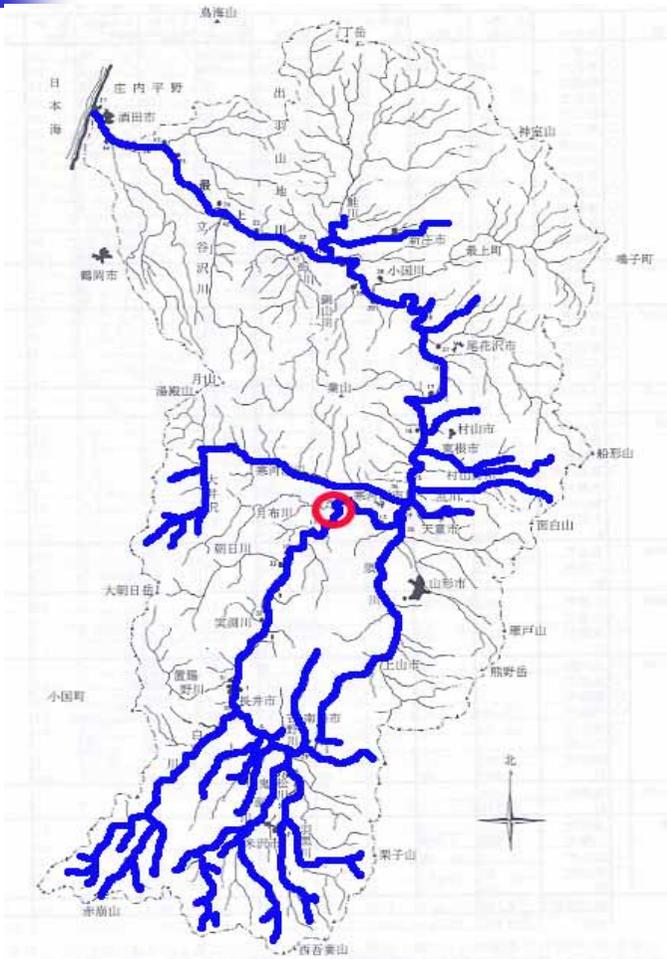
- 大江町(左沢)にとって、最上川の持つ存在意義はとても大きい
- 最上川が地域にとってどのような関わりにあったのかを把握する
- 今後の河川と地域のあり方について将来へ向けた展開と考察



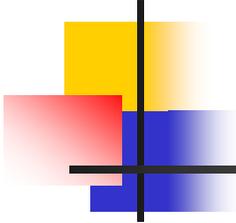
調査方法・手順

- アンケート調査
対象： 左沢1区～3区
- ヒヤリング調査
- 現地調査
- 文献調査

江戸時代(~ 1867)



年代	
■ 初期	最上氏の支配
■ 初期	舟運開始
1622	左沢藩成立
1648	松山藩成立
1715	廻米
■ 1780	六斎市
1783	天明の飢餓
1796	百目木事件
1809	北堰完成
1833	天保の飢餓
1836	洪水
1845	大火
■ 1853	あおそ「産物第一」
1853	嘉永の早き
1855	漆「助成第一」
1858	馬市
1858	芝居小屋



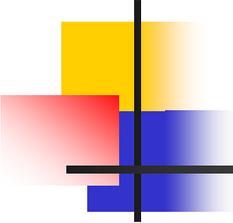
江戸時代(～1867)

- 最上川舟運の中継地点としての港町
(米、あおそ、漆、生糸、紅花など)
- 城下町左沢として、市や芝居小屋など
人々の賑わい
- 川を利用した漁猟や観光遊覧の地
- 港町として商業を中心に大変な賑わい

明治時代(1867~1910)

年代	
1867	大政奉還
1869	松山藩の版籍奉還
1870	山形県成立
1871	左沢領山形県へ
■ 1872	最上川の通行自由化
1873	学校教育開始
1881	遊郭解禁
1883	最上橋架橋
1891	生糸対外貿易へ
1897	あおそ衰退
1905	漆川が月布川へ改名
1906	大火
■ 1907	六斎市終わり
■ 後期	舟運の衰退





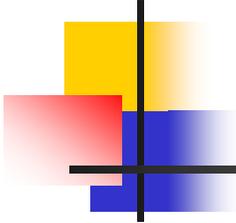
明治時代(1867～1910)

- 明治維新により幕藩体制の崩壊。舟運の自由化により繁栄期
- 川を利用した商売(運輸、渡舟、船頭等)
- 港町左沢として商業や産業で大いに繁栄
- 初めて最上橋(木造)が架けられる

大正・戦前(1910~1945)



年代	
1917	南堰完成
■ 1920	左沢線開通
1922	灯籠流し
1923	供楽座
1931	左沢倶楽部
1936	左沢大火
1930頃	魚が豊富に捕れた
■ 1942	遊郭禁止
1942	芝居小屋衰退
■ 1945	太平洋戦争



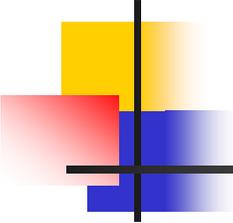
大正・戦前(1910～1945)

- 製糸などの産業により町が大変繁栄
- 遊郭など娯楽、観光遊覧の場として賑わう
- 大正10年には左沢線の開通
- 一方で今まで川を利用していたような商売(主に舟関係)の衰退

戦後(1945~)

年代	
1945	終戦
1946	最上川舟唄
1950	花火大会開始
■ 1955	石油依存へ
1955	水害
1965	上郷ダム建設
■ 1965	生活排水が川へ
1965	茶屋衰退
■ 1970頃	川の水が汚くなる
1976	大水害
1990	最上橋の補修
2001	最上川フェスタ開始

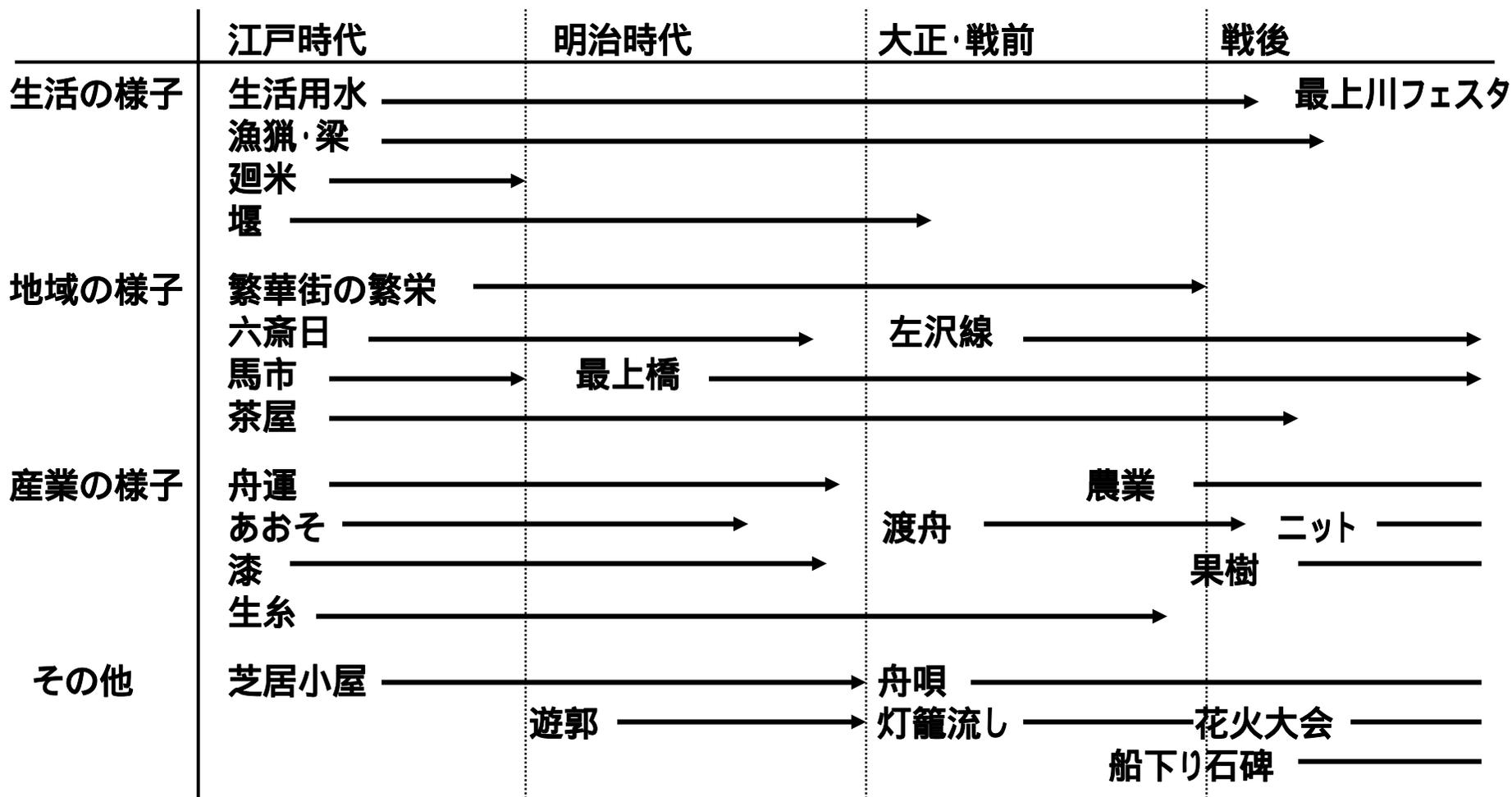




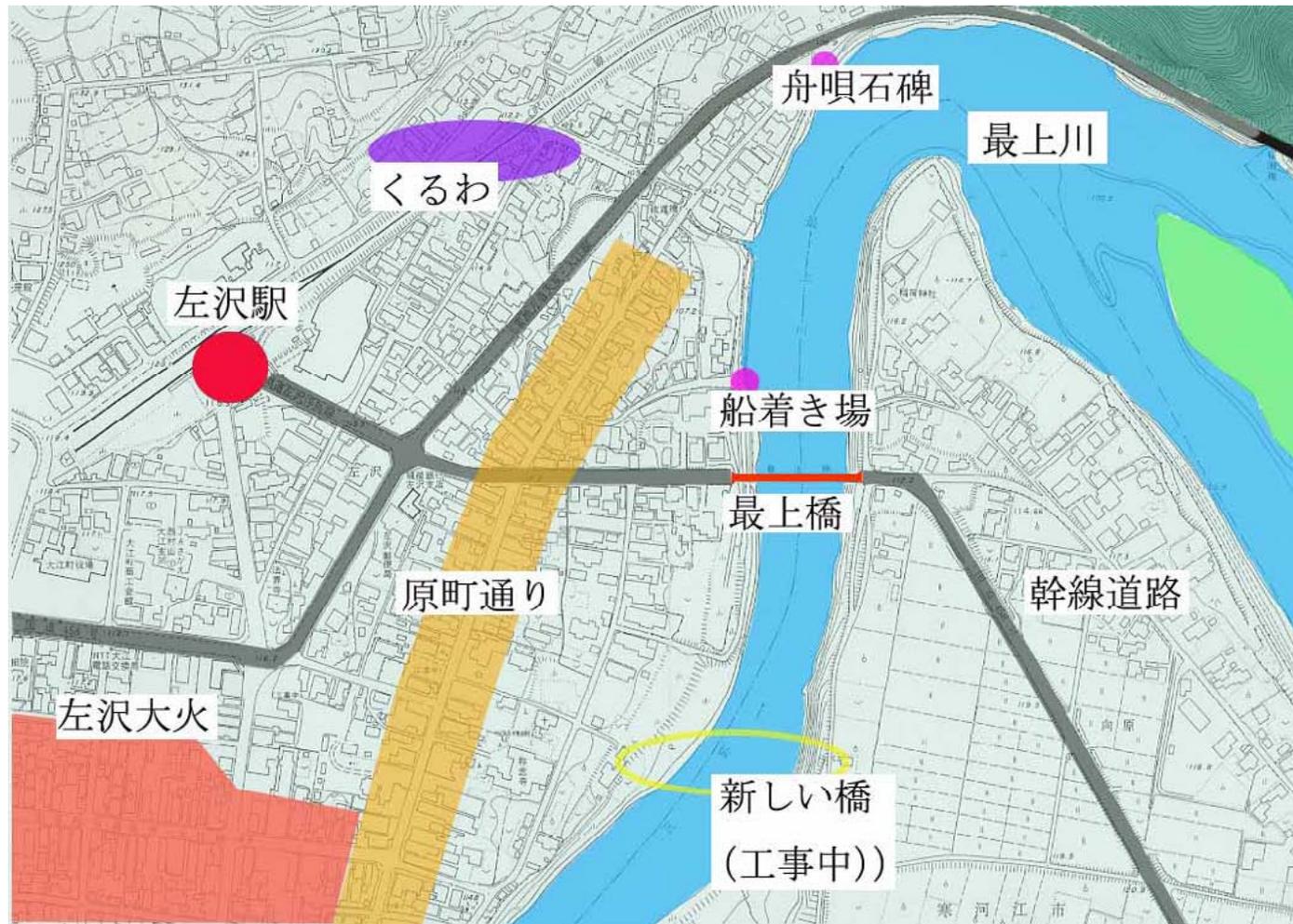
戦後(1945~)

- 高度経済成長による工場の廃棄物や生活排水の流出、ダム建設
- 川の水の濁り、環境の汚染
- ライフラインの整備(電気、水道、ガス等)
- 最上川との関係した暮らしから離反

時代別の最上川との関わり

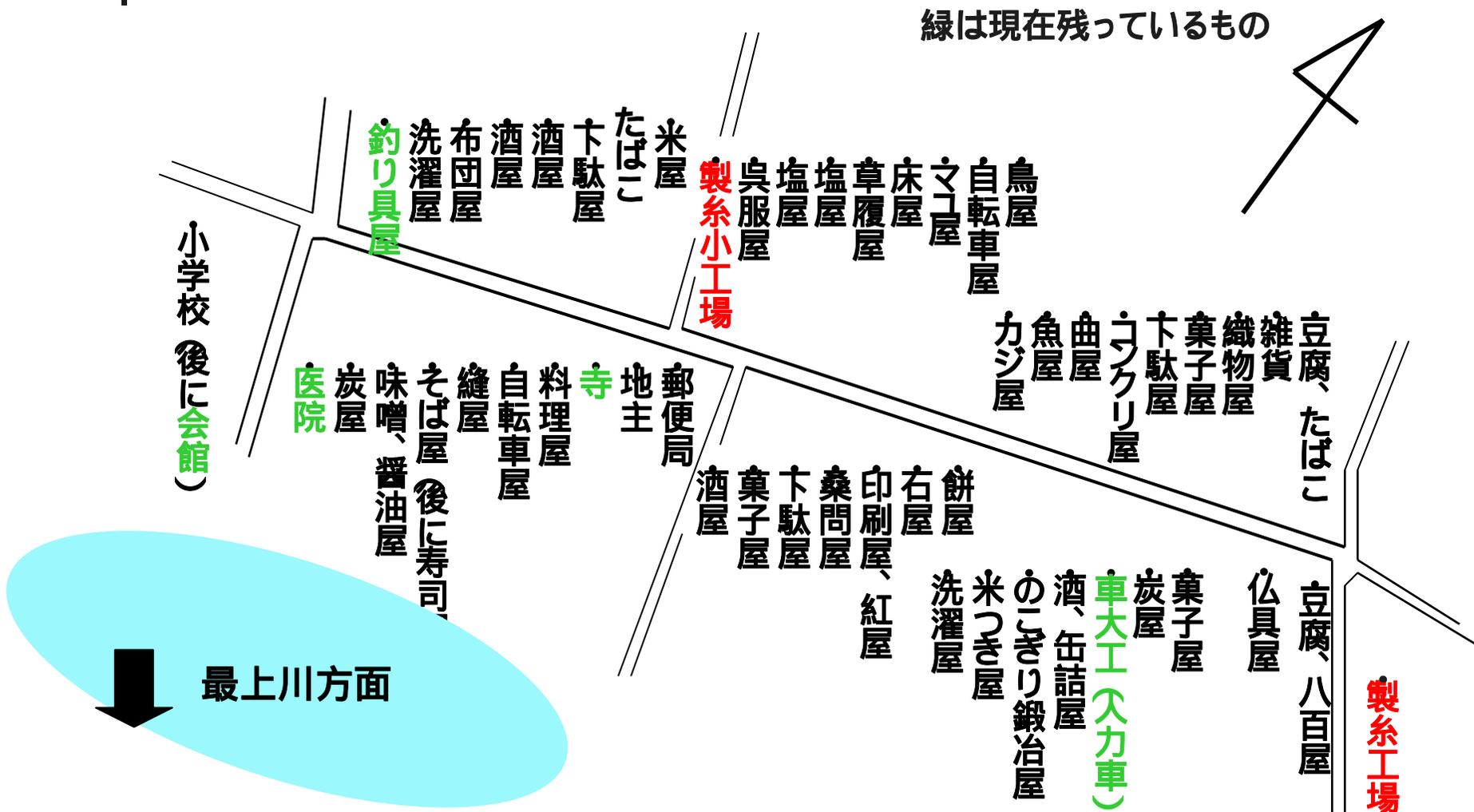


左沢歴史MAP



原町通りの商業(大正・戦前)

緑は現在残っているもの



住民意識

図1 年齢別 最上川の印象

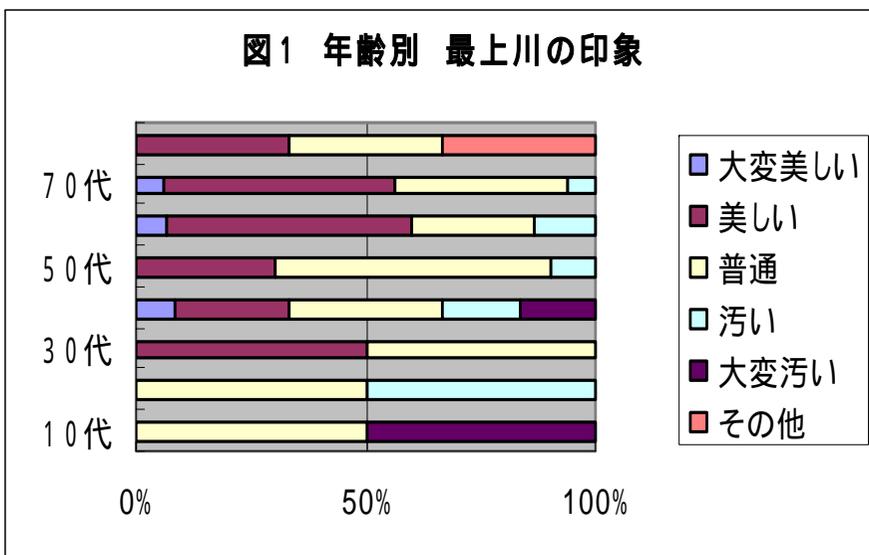
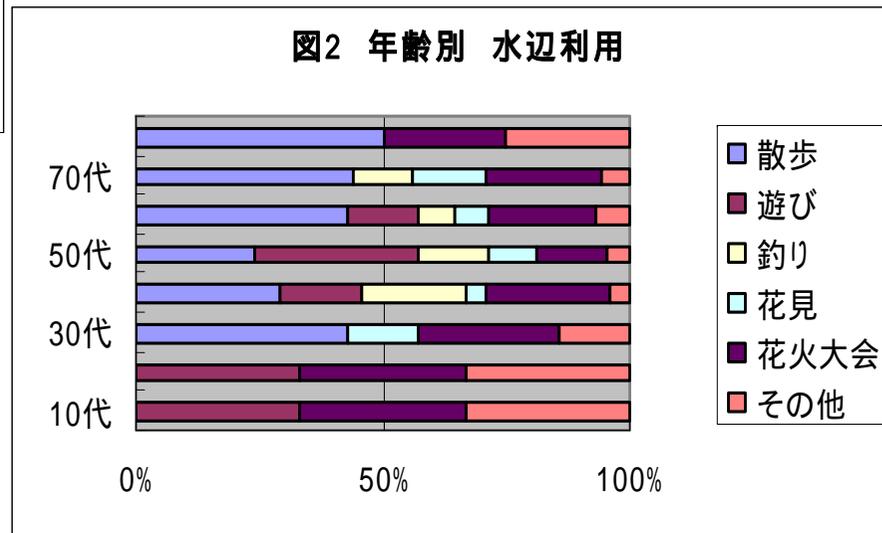


図2 年齢別 水辺利用



住民意識

図3 河川印象別 河川事業評価

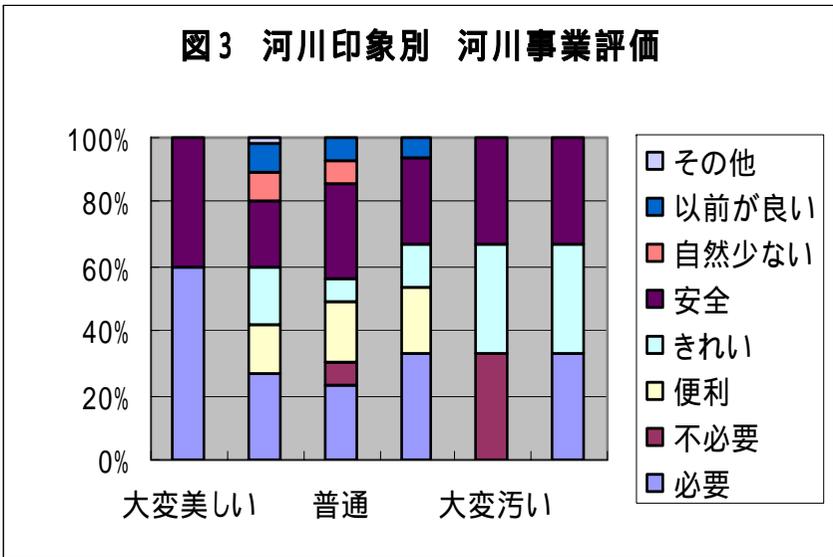
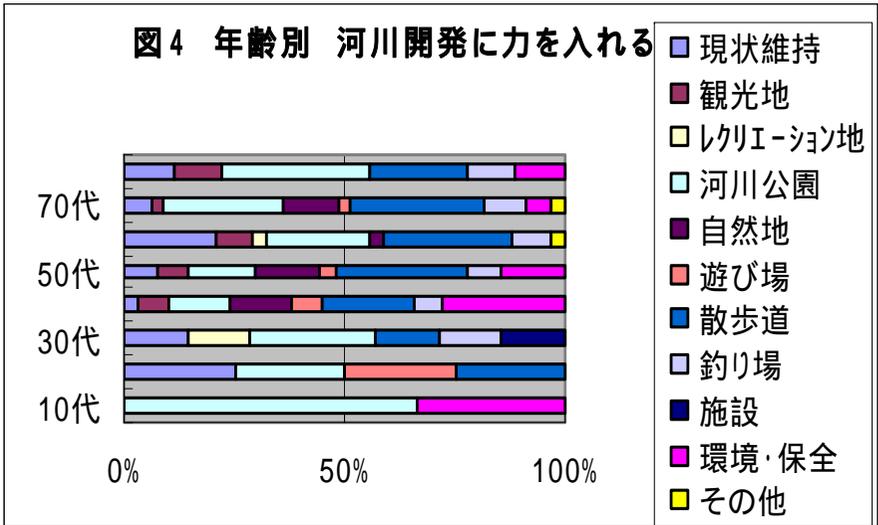
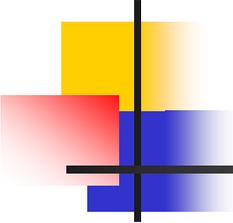


図4 年齢別 河川開発に力を入れる





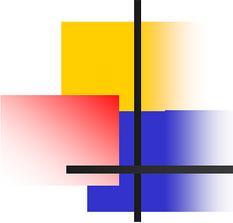
左沢の今と住民の思い

左沢の今

- 現在の左沢はかつてのような活気は全く見る影もない

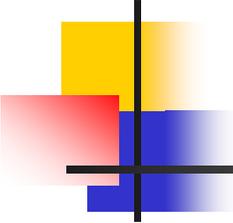
住民の思い

- かつてのような最上川のすばらしさを取りもどして欲しい
- 最上川は生活するうえで無くては成らない存在である



課題・問題点

- **意識の問題**
(意識の低下、文化の伝承など)
- **取り組み・活動の問題**
(川文化の利用と機会、地域事業の実態)
- **地域・環境の変化の問題**
(河川環境の変化、外部との交流、少子高齢化など)



今後への展開・提案

「知ってもらおう」ということが大切

提案

- 高齢者によるふれ合い教育
- 交流の場となる親水空間づくり
- 既存のイベントの改善
- 最上川商品の活用
- 参加型体験・交流活動